



TOKYO DOME GROUP REPORT

東京ドームグループレポート

当社グループは、いつの時代にもほかに先駆けて
さまざまなレジャー施設とサービスを
多くの人々に提供してきました。
今後もレジャー事業の拡大を見据え、
お客様に心から楽しんでいただける
安全・安心な都市型レジャーを追い求め続けることを
社会的な使命ととらえ、レジャー・サービス業の
100年企業として変わることはない「感動共有」と、
次世代の新たな価値を持続的に創出していきます。



経営理念

企業目的

私たちは人とひととのふれあいを通して
お客様と「感動」を共有し
豊かな社会の実現に貢献します

経営方針

∞ 新しい価値を創造する活力と豊かな対話を求め ∞

- 日々新たな気持ちで仕事に取り組み、前進しよう
- 明日のさらなる発展のために、今日の目標を達成しよう
- お客様の声に耳を傾け、誠意をもってお応えしよう

安全理念

東京ドームグループは、お客様と「感動」を共有するために、
安全を第一に考え、行動します

安全基本方針

- 安全で楽しい施設とサービスの提供を追求し続けます
- 安全について私たち自身で基準を設定し遵守します
- 安全のための教育訓練に積極的に取り組みます

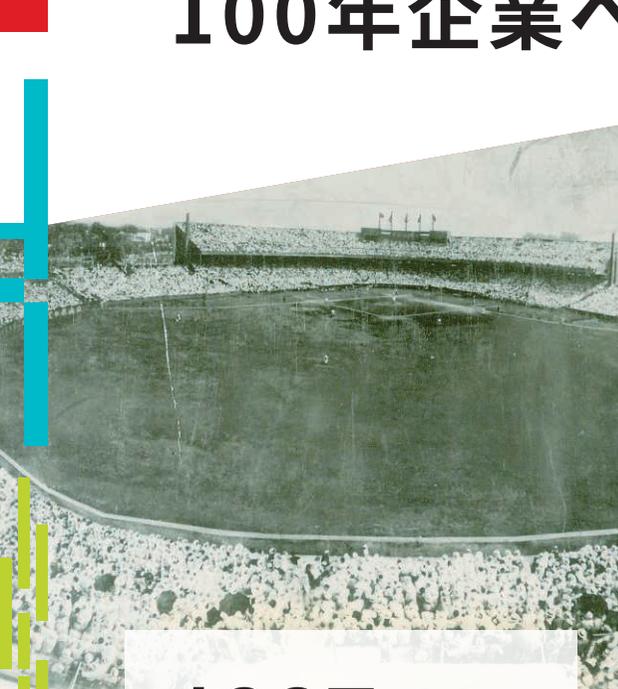
CONTENTS

02	東京ドームシティ大規模リニューアル	25	東京ドームグループのトータルソリューション
06	東京ドームグループの施設紹介	27	新たな感動体験創出のための取り組み
07	東京ドームシティ事業	28	東京ドームグループのサステナビリティ
22	熱海事業	39	東京ドームグループの歴史
23	流通事業・その他の事業	40	会社概要
24	東京ドームグループの企画力・運営力	41	トップメッセージ

発行にあたり 「東京ドームグループレポート」では、東京ドームグループの事業内容や持続的な企業価値創出に向けた取り組みなど、東京ドームグループの魅力を集約し掲載しています。あらゆるステークホルダーの皆様が、本レポートを通じて、当社グループへのご理解を深めていただければ幸いです。

発行年月 2025年4月

「感動」を共有し、 持続的に企業価値を創出する 100年企業へ



1937

後楽園スタジアム
(野球場) 開場

東京の真ん中に「後楽園球場」が誕生。当時はもちろんのことまだ屋根のない球場で、プロ野球全8球団の公式戦が開催されていました。



1988

日本初の全天候型多目的スタジアム
「東京ドーム」が誕生

日本初の全天候型多目的スタジアム「東京ドーム」が誕生。雨天の心配がなくなったため、スポーツはもちろんのこと、さまざまなビッグイベントやコンサート会場としての利用が増えました。



2023~

東京ドームシティ大規模リニューアル

なにげない日が特別に、特別な日をもっと特別になる。ここにしかないエンターテインメントシティへ。スポーツ・エンターテインメントを軸とした街としての一体感や滞在快適性、満足度の向上を目指して、環境整備を進めています。

「心が動く、心に残る。」街づくりへ

東京ドームシティ大規模リニューアル！

2022年リニューアル



東京ドームで過去最大規模のリニューアル

P07-08

2024年オープン



黄色いビル2階にエンタメフードホール「FOOD STADIUM TOKYO」開業

P18

2024年オープン



黄色いビル6階に新宇宙体感施設「Space Travelium TeNQ」開業

P15

2023年リニューアル



東京ドームホテルに新コンセプトフロアが誕生

P20

2023年リニューアル



LaQua開業20周年！過去最大規模のリニューアル

P16-17

2024年リニューアル



バイキングゾーンがリニューアル！新アトラクションも登場！

P12

2023年オープン



JFA サッカー文化創造拠点「blue-ing!」開業

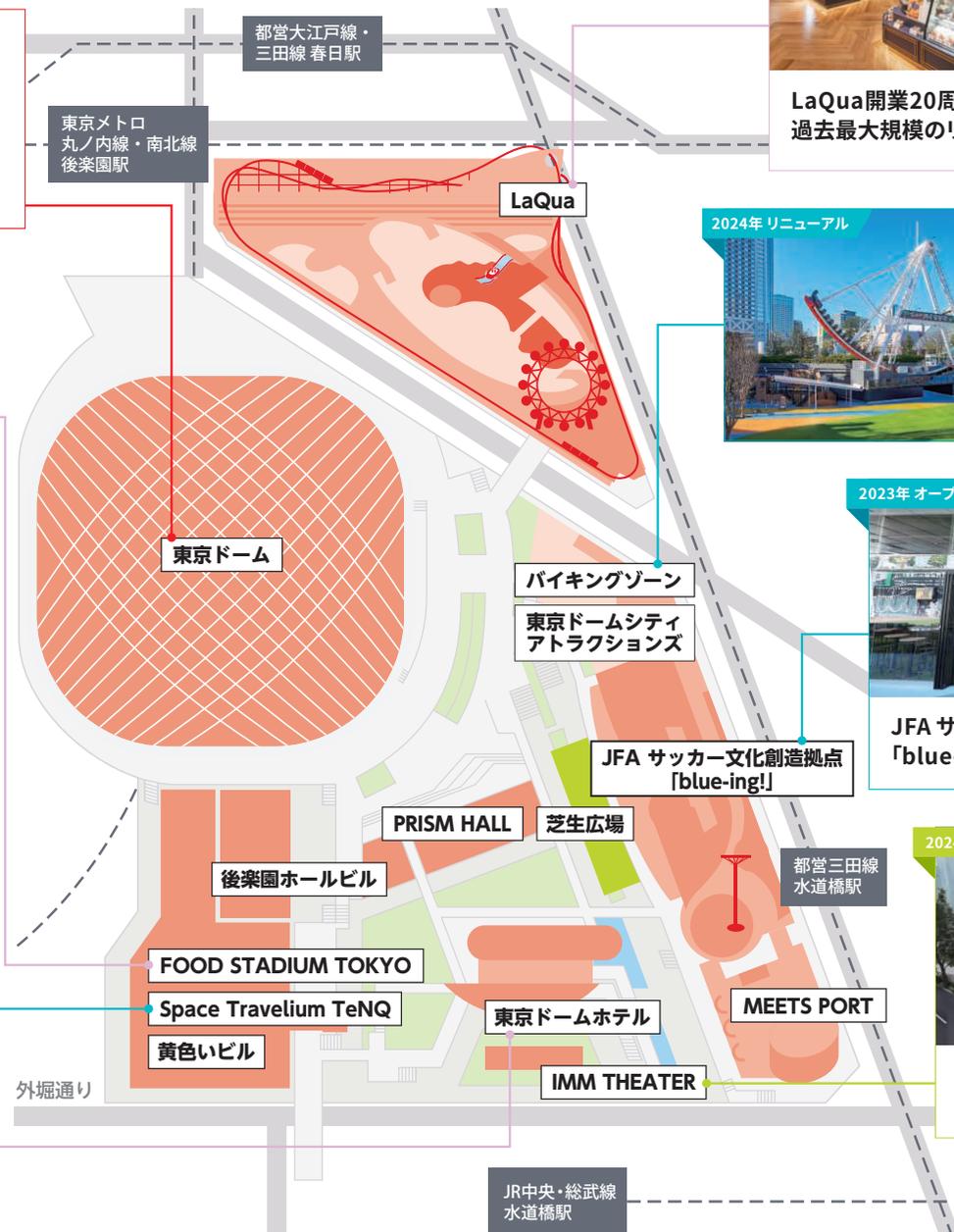
P21

2024年オープン



吉本興業グループによる新劇場「IMM THEATER」開業

P21



ロゴに込められた想い

東京ドームシティのロゴマーク

リニューアルに合わせ、2023年3月より新たなロゴマークの使用を開始しました。新たなロゴマークは「多彩な“つながり”と“感動”」を最大限表現し、来場するお客様にとって東京ドームシティで過ごすひとときが忘れられない感動体験の場になるよう、これからも新しい顧客体験価値の創造を続けていく東京ドームシティの象徴となります。

TOKYO DOME CITY

心が動く、心に残る。

お客様とここで働くすべてのひとの組織や立場の枠を超えた、多彩なつながり

新しいロゴに込められた想い

書体はオリジナルフォントを開発し、ユニークで親しみやすさを感じさせるデザインを採用しました。多種多様なエンターテインメントを提供する「東京ドームシティ」の多彩な体験価値に呼应して変化する可変性をもたせ、東京ドームシティに新設したビジョン等のデジタルデバイスにも動的に活用することができます。

カラーが意味する東京ドームシティの目指す姿

新たなロゴマークに採用したカラーは、「共生・共存」「多様な価値観の連繋」「持続可能な社会の実現」の理念を掲げる三井不動産グループの一員として、そのアイデンティティとなる『&マーク』に採用される赤（グリーミングサンレッド）と青（シーサファイアブルー）を使用しながら、東京ドームシティの象徴である東京ドームの屋根の形状をモチーフに配色しています。

ブランディング活動およびリニューアル計画の詳細は下記公式サイトでも掲載しています。

<https://www.tokyo-dome.co.jp/branding/>



TOKYO
DOME
CITY



TOKYO
DOME
CITY



TOKYO
DOME
CITY

憩い賑わう空間創出のためのランドスケープの刷新

訪れるお客様の非日常感の醸成や期待感の高揚、滞在快適性と回遊性の向上等を図り、『街』としての一体感を感じる、より魅力的な空間を目指しています。

2023年リニューアル



国内レジャー施設最大規模の個性的な複数の大型LEDビジョン・モニター群「東京ドームシティビジョンズ」が本格稼働

東京ドームシティ内に、サイズ・形状の異なる複数の大型LEDビジョンを新設しました。特に全長122mの「パークリボンビジョン」は、隣接する芝生広場と合わせ、自然とデジタルが融合したユニークな空間で、多彩な体験価値を提供します。また、行政と連携し、地域の魅力の発信や、災害時の情報発信により防災・防犯機能を向上させ、賑わいの形成や社会基盤としての役割を担います。

東京ドームシティのロゴマーク・大型ビジョン展開が国内外のデザインアワードで受賞

ロゴマーク刷新におけるコンセプトやビジュアル表現、ならびに大規模リニューアルの一環である「東京ドームシティビジョンズ」新設におけるコンセプトや映像連動システムとそのブランド表現が、国内外のさまざまなデザインアワードにおいて主要な各賞に選出されました。

アワード	『デジタルサイネージアワード2024』(日本)	『D&AD賞』(ロンドン)	『NY TDC賞』(ニューヨーク)	『Award360°』(中国)
受賞内容	グランプリ	D&AD Pencil Winners 2024 "Wood Pencil" (銅賞)	NY TDC70 WINNERS "Certificate of Typographic Excellence" (優秀賞)	Award 360° 100 Award 360° 100 Award 360° 100 Award 360° 100

2024年リニューアル

フード&グッズトレーラーが続々オープン!自由に寛げる憩いの空間へリニューアル!

東京ドームシティ内に新たにフード&グッズトレーラーがオープンしました。美味しいグルメや、オリジナルのお土産を販売するギフトショップなど、飲食やお買い物を気軽に楽しめる店舗が充実しました。



東京ドームグループの 施設紹介

あらゆる世代のお客様に感動を届けるべく
進化を続けてきた当社グループ。

東京ドームシティ事業をはじめ、
多種多様な事業を展開しています。



東京ドームシティ事業

P07



熱海事業

P22



流通事業・その他の事業

P23





全天候型多目的スタジアム

東京ドーム

東京ドームシティの“顔”とも言える、日本初の全天候型多目的スタジアム。1988年の開場以来、野球をはじめとするスポーツはもちろんのこと、コンサートや展示会など年間を通じて多種多様なビッグイベントが開催されています。天候を気にすることなく、利用者も来場者も安心して使用できます。

開場	1988年	階数	地下2階～地上6階
面積	建築面積 / 46,755㎡	高さ	最高部の高さ / 地上 56.19m
	グラウンド / 13,000㎡		グラウンド面からの高さ / 61.69m
容積	124万㎡	収容人数	野球43,500人 / コンサート55,000人



©2023 GIFT Official



2022年 東京ドームで 過去最大規模のリニューアル

従来の約4.4倍の面積となる国内最大級のメインビジョンの新設や、入場ゲートおよびコンコースのデザイン刷新、多様な観戦スタイルに対応できる新たな観客席を設置。ほかにも完全キャッシュレス化や顔認証技術の導入などのDXを行い、新しい観戦体験ができるスタジアムへと生まれ変わりました。

多様なニーズに応える快適な観戦空間

高級感あるボックスシートで寛ぎながら観戦ができる「THE 3rd PLATINUM BOX」や、リゾートをコンセプトにした半個室のグループ席「MASU CABANA」など観客席を大幅リニューアルし、会場との一体感ある空間で快適に観戦を楽しめます。また、東京ドーム開業より長年にわたり親しまれてきたスイート倶楽部も「THE SUITE TOKYO」としてリニューアル。より上質で特別な空間に生まれ変わりました。



ジャイアンツの世界に没入できるエキサイティングな空間

各入場ゲートのデザインを一新し、新たなグラフィックデザインを施しました。ゲートや壁面には、ジャイアンツの歴史を全面に表現したビジュアルを使用。コンコースには約260台のデジタルサイネージ、内野22ゲートと外野25ゲートのエントランスには大型LEDディスプレイを設置し、お客様がスムーズにジャイアンツの世界に没入できる空間へと生まれ変わりました。



TOKYO DOME TOUR

東京ドームについてガイドの説明を受けながらご見学いただけます。個人でのご参加から、修学旅行や社会科見学など団体の方までどなたでもご参加いただけます。

選手がプレイするマウンドまたはブルペンで、ピッチング&バッティング体験ができるアスレチックコースや、選手がプレイするグラウンドやベンチ、グループシートなどをご案内するスタンダードコースなど、通常ではなかなか入ることのできないエリアをご案内します。

また、海外からお越しのお客様に向けて通訳付きの特別なツアーコースもご用意しております。



TOKYO DOME GOURMET

野球観戦のもうひとつの楽しみと言えばフードやドリンク。東京ドーム内はグルメなお店が67店舗もあり、ビールのおつまみはもちろん、選手がプロデュースしたお弁当や、国際色豊かなメニュー、そして人気のスイーツまで、観戦グルメがとても充実しています。列に並ばずスムーズに購入するなら東京ドームモバイルオーダーがおすすめです。



後楽園ホール

“格闘技の聖地”後楽園ホールは、新商品発表会や映画、TV撮影などに利用される最大収容人数約2,000人の多目的ホールです。ボクシングリングもご利用いただけます。

開場	1962年
面積	ホール／575㎡ 展示会場／171㎡
階数	後楽園ホールビル5階～6階
座席数	1,403席



「後楽園ホール」開催イベント例

特別イベント「還暦祭」を開催

2022年4月、後楽園ホール60周年を記念した特別イベント「還暦祭」を開催し、「女子プロレスドリームフェスティバル」と「50周年 新日本プロレス+全日本プロレス」のドリームマッチが実現しました。



後楽園ホール60周年記念特別イベント「還暦祭」



Kanadevia Hall (2025年4月1日より名称変更)

旧：TOKYO DOME CITY HALL

スタンディングで最大3,000人超の収容人数を誇る、都心でも類を見ない多機能ホール。臨場感と一体感にこだわった高性能の音響・照明システムを備え、コンサート、ミュージカル、映画、格闘技、ビジネスなど多様な用途に対応。常に高い稼働率を維持しています。

開場	2008年
面積	フロア面積／10,000㎡ 延床面積／12,300㎡
階数	MEETS PORT 地下3階～地上2階
収容人数	3,190人



「Kanadevia Hall」開催イベント例



©「ヒブノシスマイク -Division Rap Battle-」Rule the Stage製作委員会



PRISM HALL

東京ドームシティの中心に位置するマルチコンベンションスペース。最大約2,000人収容のビジネス・展示会系イベントなどさまざまな用途に対応可能なホールです。

開場	1990年
面積	フロア面積／2,809㎡
高さ	天井高／5m
収容人数	2,085人



「PRISM HALL」開催イベント例



ハンドメイドマルシェ

世界らん展



大人のための遊べるギャラリー

Gallery AaMo

エンターテインメント性とアートの融合による、「楽しさ」と「ライブ感」を体験できる大人のための「遊べる」ギャラリー。最先端のメディアアートから工芸、サブカルチャーまで、さまざまなジャンルの催事を継続的に展開しています。

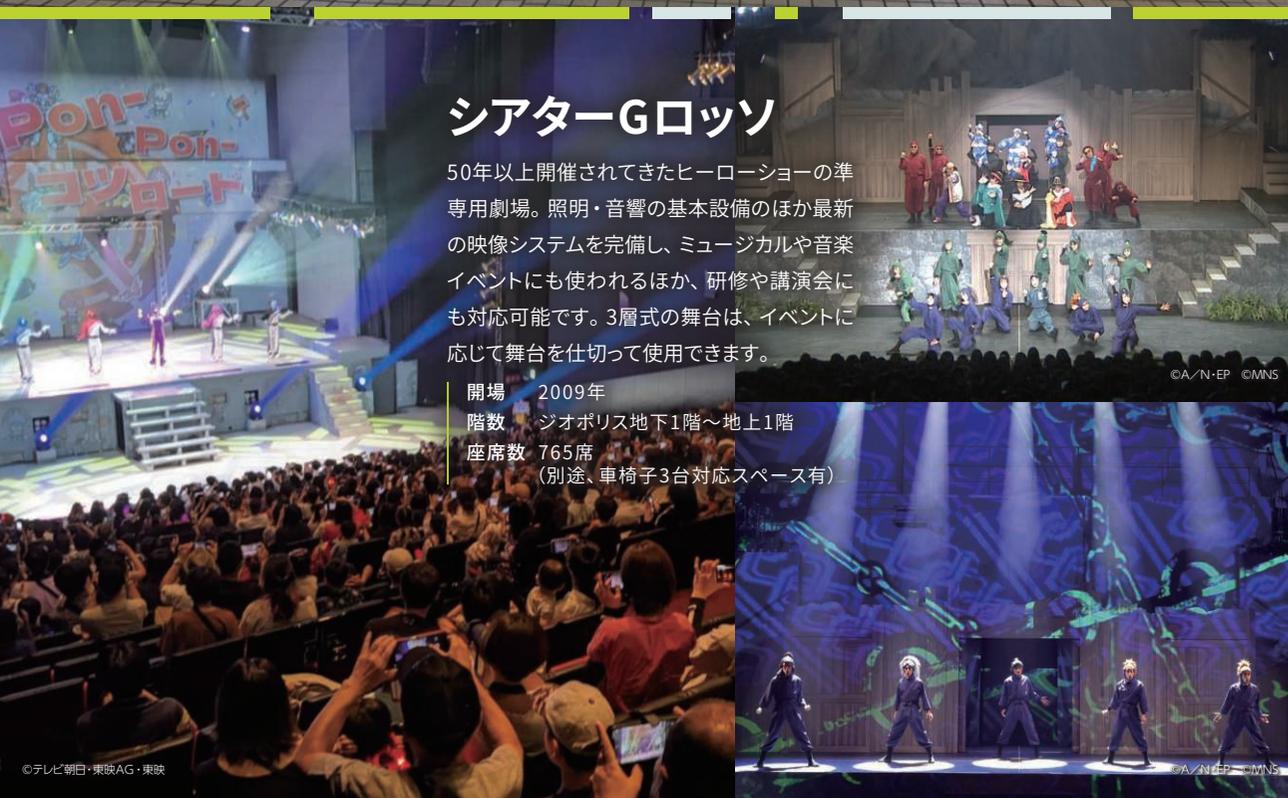
開場 2017年 面積 フロア面積 / 830㎡



「Gallery AaMo」開催イベント例

Art + Amusement and More!

AaMoの「A」は「Art」「Amusement」の略、そして「aMo」は「and More」の略です。新しい価値が創造され、東京の新名所として認知されていくことを目指した、欲張りな文化発信拠点です。



シアターGロッソ

50年以上開催されてきたヒーローショーの準専用劇場。照明・音響の基本設備のほか最新の映像システムを完備し、ミュージカルや音楽イベントにも使われるほか、研修や講演会にも対応可能です。3層式の舞台は、イベントに応じて舞台を仕切って使用できます。

開場 2009年
階数 ジオポリス地下1階～地上1階
座席数 765席
(別途、車椅子3台対応スペース有)



「シアターGロッソ」開催イベント例

昭和から続くヒーローショー

1971年から続く、テレビで見ていたヒーローが目の前で活躍する、長年お客様から愛されているヒーローショーです。後樂園ゆうえんちの野外劇場ではじまり、スカイシアター、そして屋内型の劇場「シアターGロッソ」での公演と、時代とともにヒーローの魅力を存分に引き出しつつ、照明や映像効果でも新しい体験を提供しています。



©石森プロ・東映



©テレビ朝日・東映AG・東映



入園無料の都心の遊園地

東京ドームシティ アトラクションズ

小さなお子様から大人まで、入園無料で1日楽しめる遊園地。センターレス大観覧車「ビッグ・オー」や最高斜度80度で急降下するジェットコースター「サンダードルフィン」、雨の日でも楽しめる屋内アトラクション「バックダーン」「ガンガンバトルーズ」など、さまざまなアトラクションを導入し、お客様をお待ちしています。

開場 1955年(旧・後樂園ゆうえんち)

面積 敷地面積 / 30,000㎡



完全オリジナル開発の新機種が登場！XRシューティングアトラクション

XR ミッション バトルワールド 2045

ヘッドマウントディスプレイ「Meta Quest 3」のMR(複合現実)技術を使った常設型のウォークスルーのマルチプレイヤーシューティングゲームとしては、世界初※の事例となります。2024年8月には、世界的に権威のある「Auggie Awards(オーギー アワード)」のVR部門最優秀賞を受賞するなど、多くの有識者の皆様から高い評価をいただいています。ヘッドマウントディスプレイを装着して「現実と仮想」「現代と未来」を行き交うイマーシブ体験をお楽しみください。

※ 日本XRセンター社調べ



2024年リニューアル

バイキングゾーンがリニューアル！新機種も登場！



東京ドーム方面へつながる大階段を設置し、テーブルやベンチが併設された飲食・物販店舗や芝生広場を新設しました。さらに、道路に面した壁の一部撤去により、外部からも東京ドーム方面からもアクセスしやすく、お客様が行き交う開放的な多目的広場とし、さらなる賑わいが生まれました。



バ・バ・バ バイキング

大人気だったバイキングが再登場！独特の浮遊感で予想を上回るスリリングな体験！乗り場の高さが上がったことで、乗車中は今まで以上に大迫力の景色が楽しめます。



フライングバルーン

予測不能なリズムカルな動きが特徴の新アトラクション。高さ10mまで上昇し、乗車中の見晴らしも抜群！家族みんなで楽しめます。



「東京ドームシティアトラクションズ」開催イベント例

年間を通じてさまざまなイベントを開催

夏期限定イベントとして、お子さま向け水遊び広場「わくわく！ウォーターガーデン」、お化け屋敷「怨霊座敷」夏の特別演出を開催。お客様に「いつも何か新しいことをやっている遊園地」と認知していただき、毎回新鮮な気持ちで楽しんでいただけることを目指しています。





都内最大級の屋内型キッズ施設

ASOBono!

ファミリーで楽しめる都内最大級の屋内型キッズ施設。身体を使って遊ぶコーナーや、頭を使って楽しむゲームコーナーなど5つのエリアにわかれ、お子様の成長や性格に合わせて楽しめます。家族力がアップする仕掛け満載の施設です。

開場	2011年
面積	敷地面積 / 1,720㎡
プレイエリア	5箇所
対象	0歳～小学生
定員	500人



スポドリ!

野球、ゴルフ、ボルダリングを楽しめる屋内型スポーツ施設。「スポーツ人(＝スポーツへチャレンジする人)のさまざまな想いを受け止める」をコンセプトに、インストラクターの丁寧な指導により、誰もが気軽に楽しく、また真剣にスポーツにチャレンジできる環境を提供しています。

開場	2013年
面積	フロア面積 / 2,600㎡
階数	黄色いビル3階
エリア	野球エリア、ゴルフエリア、 ボルダリングエリア、多目的フィールド



東京ドームシティ事業



東京ドームボウリングセンター

2フロア計54レーンからなるボウリングセンター。40レーンのフロアでは大人数での大会も開催できるほか、バーカウンターが併設されたクーパーラウンジでは、飲食とボウリングを楽しむことができ、幅広いニーズに対応しています。

開場	1973年
面積	延床面積／3,600㎡
階数	黄色いビル4階～5階
レーン数	54レーン



CuBAR LOUNGE

(クーパーラウンジ)

14レーンの、クラシックで落ち着いた雰囲気のあるボウリングラウンジ。バーで提供されるお酒や軽食とともにボウリングをお楽しみいただけます。ラグジュアリーで個性的な空間は、各種撮影などでも多く利用されています。



東京ドーム ローラースケートアリーナ

なめらかで最高品質なフラットリンク。思い切り滑れる1周約100mのメインリンクと、小さなお子様や初心者でも安心して楽しめるミニリンクを有する都内最大級の屋内ローラースケート施設です。

開場	2011年
面積	フロア面積／1,600㎡
階数	黄色いビル4階
エリア	40m×24mのメインリンク、ミニリンクエリア、ダンスエリア



TaKuSuRu (タクスル)

卓球発祥の地イングランドをモチーフとした施設です。世界選手権で使用されたものと同タイプの卓球台に加え、有名選手使用モデルの卓球用具もご利用できるなど老若男女幅広い客層の方々に楽しんでいただけます。

開場	2018年
面積	87㎡
階数	黄色いビル5階



黄色いビル内に宇宙をテーマにした 体験型のエンターテインメント施設が誕生

2024年 オープン

新宇宙体感施設

Space Travelium TeNQ

(スペーストラベリウムテンキュー)

“宇宙旅行を楽しめる場所”という意味を込めた造語「Space Travelium」に、本施設の前身で8年間にわたり親しまれてきた「宇宙ミュージアム TeNQ」の名称を引継いでいます。知的好奇心をくすぐる展示やリアルなVR、アートや学びを楽しめるギャラリーや教室、数ヶ月ごとに入れ替わる企画展、カフェやショップなど、宇宙とつながる体験をお楽しみいただけます。

開場 2024年11月22日
面積 約2,600㎡

VR を活用した特別な宇宙旅行体験

VR（バーチャルリアリティ）と、HMD（ヘッドマウントディスプレイ）デバイスを利用した体験コンテンツで、着席型ではなく、半分以上をフリーローミング（自由歩行型）にすることで、今までにないリアルな体験を楽しめます。

月旅行「THE MOON CRUISE」では、ロケットに乗り込み月へ向かい、月面を歩いたり、記念撮影をしたり、大迫力の月旅行を体感することができます。



LOUNGE Q

星空や星雲などの絶景に囲まれたイマーシブ空間で、宇宙を感じられるカフェ&ラウンジエリア。宇宙や星がテーマの書籍をセレクトした本棚や占いの体験展示、光を使ったお絵描きやパズルなど、子どもから大人まで、宇宙を感じながらゆったりとお過ごしいただけます。





エンターテインメント型融合商業施設

LaQua

水をテーマに、ショップ&レストラン、アトラクション、スパの3つのゾーンが集結したエンターテインメント型融合商業施設。天然温泉が湧き出るスパと、トレンド感あるショップ&レストラン、バラエティ豊かなアトラクションは、若い女性からファミリーまで幅広い層が楽しめます。常に「五感を刺激する」サービスを提供し続けています。

開場	2003年	階数	地下2階～地上9階
面積	敷地面積／16,000㎡ 延床面積／55,500㎡	テナント数	約90店舗



2023年 オープン

LaQua1階に持ち帰りができる惣菜やスイーツ店舗が並ぶフードゾーン「DELI&DISH」が誕生

日常使いから特別な日に彩りを添える、上質でこだわりの詰まった約25店舗がオープンしました。店舗で購入したフードは、リニューアルされた開放的な屋外スペース「ラクーアガーデン」のテラス席などでお召上がりいただくことも可能。ラクーアでの新しい食体験を提案します。



DELI & DISH

2023年 リニューアル

LaQua1階～4階の店舗ラインナップがさらに充実！

旬のフルーツや食材を使用したタルト専門店「キル フェ ボン」、全国各地から厳選したお米や食品、雑貨などを提案するライフスタイルショップ「AKOMEYA TOKYO」、日々の生活をより豊かに充実させるオーガニックコスメやオーガニックフードを揃える「Biople」、香港で13年連続ミシュラン一つ星に輝いた香港点心専門店「添好運(ティム・ホー・ワン)」など、特別な日も日常も、いつでも行きたくなる施設を目指して進化します。





東京ドーム天然温泉

Spa LaQua

都会の真ん中で気軽にリフレッシュできる、国内最大級の温浴施設。東京ドームシティの地下1,700mから湧き出た天然温泉（加熱・循環ろ過式）、大人の楽園ヒーリングバーデ、広々としたリラクゼーションスペースに多種多様なエステ&リラクゼーションサロンなどを併設。海のミネラル豊富な100%の「天然温泉」、「檜浴槽の炭酸泉」、本格的な「フィンランドサウナ」など、「本物」を厳選して、ワンランク上の上質な空間をつくりあげています。

開場 2003年
面積 延床面積／約10,300㎡



2023年 リニューアル

Spa LaQua7階～9階「ヒーリングバーデ」エリアを拡張&リニューアル

スパラクーア内9階の「ヒーリングバーデ」エリアを拡張し、新たに岩盤浴室やクールダウンルーム・休憩ルームが増設されました。7階「ランデブースクエア」エリアには開放感あるフットプールやバーを新設し、東京ドームシティを眺めながらゆったりとお過ごしいただけるようになり、都心にいながら贅沢なリゾート感溢れる体験が可能な空間を提供します。



2023年 オープン

完全個室のプライベートサウナ
Sauna Lounge Rentola (サウナラウンジ レントラ) 誕生

「Rentola」はフィンランド語で「リラックスする場所」を意味します。毎日が慌ただしい都会の生活でも、フィンランドのように豊かなサウナスタイルを楽しむことができたなら。そんな思いから、すべて完全個室の「自分のためだけのサウナ」をラクーアの最上階に誕生させました。これまでにない広さと開放感のサウナ、そして専用ラウンジを備えた贅沢な空間で、別次元のリラックスとリフレッシュが叶います。





黄色いビル内に 巨大LEDビジョンを設置したフードホールが誕生

2024年 オープン **グルメやお酒が楽しめる大人のエンタメフードホール**

FOOD STADIUM TOKYO

多種多様なグルメやお酒を楽しむことができるエンタメフードホールです。館内は照明を落としてネオンが光る、大人がお酒を楽しめる空間を演出。6mの巨大LEDビジョンや多数のモニターでスポーツやエンタメを放映し、エンターテインメントシティならではの臨場感・わくわく感を感じながらさまざまな客席を自由に選んでグルメをお楽しみいただけます。

開場 2024年6月24日
店舗数 11店舗
座席数 約480席

フリースタイルなフードホール

お気に入りの席を確保してから、各自が選んだお店で、好きなグルメやお酒を注文できます。テーブルに持ち寄って楽しめるのがフードホールの魅力です。



個性的なシート

巨大LEDビジョンの前のシートでスポーツ観戦を楽しんだり、距離が縮まる栈敷席でおしゃべりしたり。食事も充実しており、飲み会だけではなくランチ利用や、スイーツとコーヒーでカフェのように利用することもできます。





3つの機能を複合化した都会のオアシス

MEETS PORT

水道橋駅をのぞむ東京ドームシティの南東エリアに位置し、上質で多彩なショップ&ダイニング、Kanadevia Hall、訪れる人をやさしく出迎える緑あふれるガーデンという3つの機能を複合化した施設です。東京ドームシティ玄関口の好立地にあるため来場者数も多く、周囲や施設内のアートワークも見どころのひとつです。

開場 2008年
面積 敷地面積 / 6,579㎡
延床面積 / 21,405㎡



フード&コミュニティ

Hi!EVERYVALLEY

コンテナを用いた複数の飲食店を中心に、緑やアートなどに囲われた“憩い”“賑わう”フード&コミュニティです。緑あふれるガーデン空間には、1人でもグループでも気軽に利用できる個性豊かな飲食店に加え、ワクワクする仕掛けが満載です。

開場 2019年
階数 黄色いビル1階～2階
テナント数 6店舗



2024年 オープン



都内最大の屋内型ふれあい動物園

アニタッチ

動物のふれあい体験・おやつあげ体験・撮影会など、多種の動物たちが共存する魅力ある空間で貴重な体験ができます。ワーキングスペースやアニタッチ初となるテイクアウトカフェもお楽しみいただけます。

開場 2024年
階数 黄色いビル1階
面積 1,200㎡

フードコート

GO-FUN

幅広い層の方々に気軽にお食事をお楽しみいただける6店舗が集まったフードコートです。小さなお子様連れファミリー向けのキッズテーブルコーナー、グループ向けのボックスシートコーナーなど、バラエティ豊かな座席を全部で約300席ご用意しています。

開場 2011年
テナント数 6店舗
席数 約300席





多目的に利用できるシティホテル

東京ドームホテル

1,006室の客室や多彩なレストラン・バー、オリジナリティ溢れる宴会・婚礼施設を備えた地上43階建てのシティホテル。5つの駅に囲まれた都心のどこに行くにも便利な好立地で、観光・レジャーやビジネスの拠点として国内外問わず多くのお客様にご利用いただいております。2025年6月には開業25周年を迎え、「楽しい」をもっとーをスローガンに展開する記念イベントやフェア、商品を通じて、当ホテルがビジョンとして掲げる「楽しさ度ランキングNo.1ホテル」を表現しながら、未来への挑戦と発展を続けてまいります。

開業	2000年	階数	地下3階～地上43階
面積	敷地面積 / 15,865㎡	高さ	155m
	延床面積 / 105,856㎡	客室	1,006室

2023年リニューアル 東京ドームホテルに新コンセプトフロアが誕生

ようこそ、上層の「隠れ家」へ

東京ドームホテルは、2000年開業以来初の大幅な改装を行い、39～41階を「エグゼクティブフロア」として、35～38階を「プレミアムフロア」として2023年春にリニューアルオープンしました。

エグゼクティブフロア (39～41階)

Tokyo Retreatを叶える最上級のおもてなし空間。木の質感を活かしたAuthentic Naturalの落ち着いたデザインは長期滞在に理想的です。



カーベットは皇居グリーンで、景観を品良くインテリアに。落ち着きのある空間です。

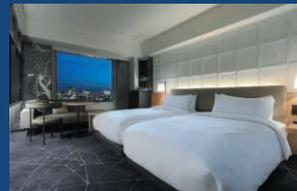
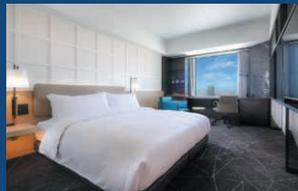


眼下に広がる風景を眺めながら、バーカウンターで特別なひと時をお過ごしいただけます。



エグゼクティブフロアご利用のお客様は“専用ラウンジ”をご利用いただけます。

プレミアムフロア (35～38階)

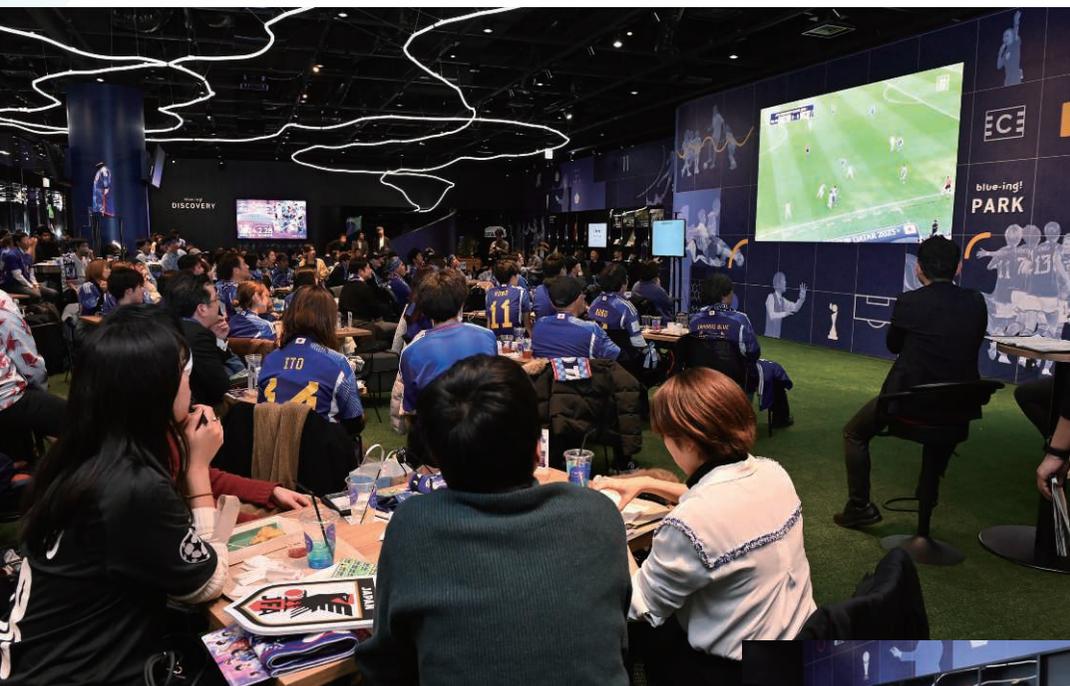


アクティブとリラックスを同時に求める、都会的でメリハリの効いたお客様にふさわしいフロアです。シックなモノトーンを基調としたUrban Classicsなデザインは、ホテルステイを特別なものに。

高層階でのご朝食とフィットネスルーム



ホテル最上階にあるスカイラウンジ&ダイニング「アーティスト カフェ」でのご朝食は、パークサイド・パレスサイドのパノラマビューをお楽しみいただきながら優雅な一日の始まりを。ウェルネス意識の高いお客様におすすめのフィットネスルームは、充実した設備も魅力です。



©JFA

2023年 オープン

サッカーの未来を感じられる次世代型複合施設

JFA サッカー文化創造拠点 「blue-ing!」

次世代型の体験型コンテンツや最新のデジタル展示、AI 自動生成などが楽しめるエリアでは、最新技術を駆使した想像を超えたサッカーの楽しみが得られます。イベントスペースやカフェ・バー、サッカーショップなども併設し、サッカーファミリーはもちろん、普段サッカーにあまり関わることのない方にもお楽しみいただけます。

開場 2023年
面積 約1,200㎡



食事や買物／イベント参加ができる
PARKエリア



必見！最先端デジタル技術×サッカーを体験できる
DISCOVERYエリア

2024年 オープン

吉本興業グループ×東京ドームによる新劇場

IMM THEATER

演劇や演芸等に精通した観客、および制作者双方の目線で設計された劇場設備を有し、オンライン配信にも幅広く対応いたします。歴史と文化と緑に育まれた文京区の新たなエンターテインメント発信拠点として、さまざまなエンターテインメントの制作者やパフォーマーの方々に開かれた、創造意欲を刺激するような劇場を目指します。

開場 2024年
建築面積 約1,384㎡
延床面積 約1,762㎡
座席数 705席(車椅子席2席含む)



舞台



客席(明石家さんまの顔のモザイクアート)



複合型リゾート

ATAMI BAY RESORT KORAKUEN

熱海にある「ATAMI BAY RESORT KORAKUEN」は、宿泊施設の「熱海後楽園ホテル」をはじめ、日帰り温泉施設「オーシャンスパ Fuua (フーア)」、レストラン「HARBOR'S W (ハーバーズ ダブル)」やフードマーケット「ラ・伊豆 マルシェ」などが集まる「IZU-ICHI (イズイチ)」を展開し、宿泊だけでなく日帰りでもお楽しみいただける複合型リゾート施設です。



熱海事業



施設名・事業名 施設概要

ATAMI BAY RESORT KORAKUEN	2019年オープン
熱海後楽園ホテル	1965年オープン 1996年タワー館オープン 2019年AQUA SQUAREオープン 客室数/189室
オーシャンスパ Fuua	2019年オープン 泉質：カルシウム・ナトリウム 塩化物泉
IZU-ICHI	2019年オープン 店内/256席 テラス/30席 (HARBOR'S W)



熱海後楽園ホテル

贅沢な空間と眺望が人気のエクゼレンシフロアを含むタワー館客室に加え、海を望めるオーシャンビュールームを含む「AQUA SQUARE」を合わせたリゾートホテル。



オーシャンスパ Fuua

相模灘を一望できる日帰り温泉施設。日本最大級の露天立ち湯、岩盤浴やロウリュ、海辺のテラスにいるかのような開放的な休憩エリア、カフェ、エステサロンなどを備えています。





流通事業

最新・流行のコスメやビューティーアイテムを提案するセレクトコスメショップ「shop in」「Crème et Rouge」を、関東・関西の都市型ショッピングセンターを中心に約40店舗展開しています。欲しいもの・話題のものがいつも揃っている「コスメの品揃え」・POPや接客を通して商品の特性やオススメが伝わる「商品提案力」・購入前にじっくり比較検討できる「商品を試しやすい環境」をブランドの強みとして、コスメ選びを楽しむ20～30代の女性を中心としたお客様の支持を集めています。

施設名・事業名	施設概要	
shop in (ショッピングイン)	関東エリア	25店舗
	関西エリア	19店舗
	中国エリア	1店舗
	計	45店舗
Crème et Rouge (クレームエールージュ)	1店舗 (阪急三番街店)	



大阪府大阪市「あべのキューズモール店」

(2025年3月現在)



その他の事業



競輪事業

施設名・事業名	施設概要
松戸競輪場	敷地面積：48,791㎡ 建築面積：37,703㎡ 競走路周長：333.33m



不動産事業

施設名・事業名	施設概要
プチモール ニツ木	商業テナントビル/ 地上2階 テナント5店舗
柿の木坂 BMWビル	商業テナントビル/ 地下1階～地上2階
代々木 イーストビル	オフィステナントビル/ 地上8階

2024年 オープン「フィットランド東京ドーム (晴海)」

2024年3月「東京2020大会選手村跡地 (HARUMI FLAG)」に ジム・スタジオ型フィットネスクラブがオープン

店内は、MODERN Styleで清潔感があり、一部のマシンは半個室化により、トレーニングに集中できる環境や、快適空間を演出。スタジオでは、多種多様なキッズスクールも展開し、お子様をはじめベビーと産後ママの健康を幅広くサポート。



スポーツ施設運営・その他

施設名・事業名	施設概要
直営スポーツ施設 フィットネスクラブ東京ドーム	各種トレーニングマシン・フリーウエイト、スタジオ2面、フィットネスプール (25m×6レーン・20m×2レーン)、ジャグジー・マッサージプール
フィットランド東京ドーム (晴海)	トレーニング目的別4エリア、トレーニングマシン、スタジオ2面、ロッカールーム、シャワー室
後楽園スポーツクラブ調布	屋内温水プール (25m×7レーン)、トレーニングルーム、スタジオ、スクール会員用ロッカー、体操場、ギャラリー、採暖室、成人会員用ロッカールーム、バスルーム (サウナ)、シャワー室
後楽園スイミングスクールひばりが丘	屋内温水プール (25m×6レーン)、体操室、採暖室、ロッカールーム、ギャラリー、シャワー室、専用駐車場20台
グループ会社	事業内容
進商株式会社	損害保険・生命保険代理店事業等
株式会社東京ドームファシリティーズ	清掃管理請負・ビル管理事業等

東京ドームグループのイベントを成功させる企画力・運営力

東京ドームシティならではの多彩なイベントを年間を通じて開催しています。東京ドームグループには、ファミリー、カップル、シニアなどさまざまなターゲットに向けた多種多様なイベントを、年間を通じて開催できるノウハウがあります。プロ野球やコンサート、展示会などのビッグイベントはもちろんのこと、ファミリーみんなで楽しめるイベントや、最新のトレンドを意識したキャンペーン、恒例の冬のイルミネーションまで。オリジナル性の高いイベントで年間を通じて多くの人を集め、毎日賑わいを見せています。



©円谷プロ

©2022「有田哲平のプロレス斬【オマエ有田だろ!!】」プロジェクト

テーブルウェア・フェスティバル

1993年よりスタートした「テーブルウェア・フェスティバル」は、日本各地の窯元の作品や世界各国の陶磁器をはじめ、ガラス、漆器、木工品など、食卓を彩るさまざまなテーブルウェアが一堂に会する日本最大級の“器の祭典”です。多様なライフスタイルを表現するテーブルセッティングの展示や、日々の暮らしに彩りを添える逸品に出会える販売コーナーを中心に、器の魅力を体感していただくテイस्टィングコーナー、国内随一のテーブルウェアコンテストなど、さまざまな楽しみ方をご提供しています。



東京ドームシティ ウィンターイルミネーション

2024年に記念すべき20回目を迎えた東京ドームシティのイルミネーションは、毎年テーマを変えて実施しています。イルミネーション期間中は、東京ドームシティ アトラクションズの乗り物がお得に楽しめるチケットや、東京ドームホテルの特別宿泊プランやコラボメニューも販売。クリスマスにはサンタグリーティングやマルシェを開催するなど、多くのお客様に楽しんでいただけるイルミネーションを目指しています。



トーキョーディスカバリーシティ!

QuizKnockがプロデュースする大規模謎解きイベント「トーキョーディスカバリーシティ! 2024 不思議な扉と100の謎」では、東京ドームシティ全域に100の謎が散りばめられた「シティ回遊謎ラリー」や遊園地を舞台とした謎解きゲーム「2つの世界と不思議な扉」を開催。謎解き初心者から熟練者まで幅広い方に楽しんでいただけるイベントとなりました。



東京ドームシティ外の取り組み

東京ドームグループが持つイベント企画のノウハウを活用してイベントの外部展開にも取り組んでいます。開催場所や季節など、さまざまな要素に合わせて随時ターゲットを設定し、内容を検討しています。

おたけ屋敷『赤ん坊地獄』
ダイバーシティ東京 プラザ(東京都江東区)



『ぐるぐるグルメカーニバル in 立川』
国営昭和記念公園(東京都立川市)

蓄積されたノウハウを活かし、質の高いトータルソリューションを提供しています。

施設運営

世代を問わず、多様なお客様の「心を動かす」施設が揃っています。

- 接客対応
- 施設運営管理

東京ドームグループは多彩なイベントやキャンペーン、健康増進プログラムなどの実現を可能にする「心を動かす」施設の運営ノウハウを備えています。あらゆる世代が質の高い接客により気持ちよく施設を利用でき、多種多様なイベントが安全・安心・快適に開催される施設を運営し、維持管理・保守点検するワンストップのサービスをお客様のニーズに沿って提供しています。また、長年の施設運営管理で培った専門的知見の高さを活かしたアドバイザーも行ってあります。



イベント運営

多種多様なイベントを常に開催し、老若男女問わず多くの人を集めています。

- イベント企画
- 提案
- プログラム構築

東京ドームグループでは、さまざまなターゲットに向けた多種多様なイベントを年間通じて開催し、老若男女問わず多くの人を集めています。プロ野球やコンサートはもとより、展示会など大規模コンベンションの導入も増えており、イベント企画や提案、プログラム構築に多くの知見を有しています。また、中小規模のイベントでも、最新のトレンドを意識したキャンペーンやファミリーで楽しめるプログラムなど、集客力のある企画立案が可能です。



トータルソリューションとして東京ドームシティ外に提供 グループの総合力で実現する良質なサービスとコストパフォーマンス

全国のさまざまな施設において、大小合わせて年間50以上のイベントを行っており、地元の方向けのイベントから豊富なリレーションを活かしたオリンピックやトップアスリートのイベント、パラスポーツイベントの開催（D&Iの促進：スポーツを通じて誰もが生活しやすい社会作りへの貢献）、サーカスや格闘技イベント等、バリエーションに富んだイベント企画・実施が可能です。コロナ禍においては、自主的なオンラインイベントの開催も行い、普段は施設にお越しになれない方向けのイベント開催も行いました。ニーズに合わせたリアル・オンラインのさまざまなイベントを、一般企業や行政・自治体の施設においても、企画から実施まで一手に提供することが可能です。



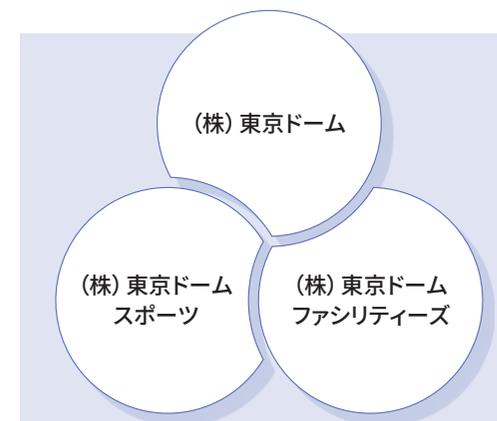
東京ドームグループが運営する公共スポーツ施設

東京ドームグループのPPP事業 (Public Private Partnership) では、主に指定管理者制度を利用した施設の運営管理受託 (行政業務の代行) を行っています。質の高い行政サービスを地域住民に提供したいと考える地方自治体からは、東京ドームグループのPPP事業について高く評価いただいています。特に、最も多く運営管理を受託する体育館などの公共スポーツ施設では、40年以上民間フィットネスクラブやスイミングスクールを運営しながら、競泳のトップアスリートの育成も行ってきた東京ドームグループならではの健康増進や競技力向上に資する多彩なスタジオプログラムやお子様向けのスクール事業の提供が、全国の自治体や地域の利用者から大変喜ばれています。

また、各現場で東京ドームグループの経営理念「私たちは 人とひととのふれあいを通して お客様と「感動」を共有し 豊かな社会の実現に貢献します」を実践すべく、(株)東京ドームの教育センター部と連携した研修計画などを立案・実行しています。今後は、民間資金やノウハウを活用して効率的な施設整備や管理運営を行うPFI方式 (Private Finance Initiative) での施設運営にも積極的に取り組んでまいります。

高く評価される東京ドームグループのPPP事業

- ① 安全・安心な環境整備手法
- ② 施設の運営管理に対して総合的な提案が可能
- ③ 東京ドームの資源を活用したイベント企画
- ④ 充実したスポーツプログラムの提供ノウハウ



当社グループでは、一般企業や行政・自治体においても、グループ各社が長年培ってきたイベント企画、スポーツ施設運営、施設管理などのノウハウをひとつにまとめたトータルソリューションを提供しています。さまざまなジャンルの集客イベントやスクールプログラムの企画・運営、ビル・施設などの運営・保守・管理など質の高いサービスを展開します。

主な業務受託施設

- 山形県天童市子育て未来館 げんキッズ ● 山形県上市市総合子どもセンター「めんごりあ」 ● 本庄市中央地域の都市公園および体育施設 ● 東京ドームスポーツセンター東久留米 (東久留米市スポーツセンター)
- 西東京市スポーツ・運動施設9施設 ● 文京総合体育館ほか6スポーツ施設 ● 練馬区立中村南スポーツ交流センター ● 練馬区立平和台体育館ほか3施設 ● 豊島区立巣鴨体育館
- 豊島区IKE・Biz としま産業振興プラザ ● 流山市民総合体育館ほか7体育施設 ● 流山市野々下福祉会館・児童センター ● 流山市向小金福祉会館・児童センター ● 松戸市小金原市民センターほか7市民センター
- 松戸市市民交流会館 (すまいる) ● 南アルプス市 遊・湯ふれあい公園 後楽園スポーツクラブ ● 松塩地区広域施設組合「ラーラ松本」「平瀬運動公園」 ● 静岡県草薙総合運動場
- 富士総合運動公園 ● 富士市総合体育館 ● 熱海市マリンスパあたま ● 熱海市熱海海浜公園 ● 熊本県菊池市総合体育館 ほか



● 武蔵野の森総合スポーツプラザ



● 板橋区立体育施設 22施設



● 静岡県草薙総合運動場



● 富士総合運動公園

新たな感動体験創出のための取り組み

日本最大級のエンターテインメントエリアである東京ドームシティ。

国境も、言語も、時間も、仮想も現実も、あらゆる境界が融合していくこの時代だからこそ生まれる新たな感動を生み出すための、さまざまな取り組みに挑戦しています。

東京ドームシティ発の新プロジェクト「enXross(エンクロス)」を発足

デジタル技術を活用した経済圏創出やお客様の感動体験アップデートに取り組み、社会に新しい価値や感動体験を提供するエンターテインメントとイノベーションのプロジェクト「enXross」を新たに立ち上げました。2024年7月には、「XR×エンターテインメント」をテーマにしたイベント「enXross 2nd」を開催しました。今後もエンターテインメントとテクノロジーの掛け合わせを行い、東京ドームシティから新たな感動体験を産み出すプロジェクトを推進していきます。

世界のアイデアが交差する「enXross 2nd」開催

エンターテインメントの未来を切り拓く最新テクノロジーを用いたプロジェクトの創出や、参加者の起業家精神の支援・育成を行うことで「東京ドームシティをテクノロジーの聖地にすること」を目的としており、会場観覧とオンライン視聴を合わせて計1,000名以上の方にご参加いただきました。開発イベント「enXross HACKATHON」では、93チームの中から選ばれたファイナリストがプレゼンテーションを実施しました。同時開催した「enXross EXHIBITION (エキシビション)」では、XR専門家によるトークセッションや最新XRテクノロジーの展示を行い、盛況の内に終了しました。



世界最大級のAR・VRイベント『AWE Asia 2024』に出展 VR部門 最優秀賞「Auggie Awards」を受賞

2024年8月にシンガポールで開催された世界最大級の拡張現実 (AR) と仮想現実 (VR) 技術のカンファレンスである「AWE Asia 2024」に出展し、株式会社日本XRセンターと共同開発したXRアトラクションのデモ体験会を実施しました。ゲーム全体の世界観や3D技術の品質の高さが評価され、AR・VR業界の賞として世界的に権威のある「Auggie Awards」のVR部門最優秀賞を受賞しました。



生成AIを活用した『AI東京ドームシティ新聞』サービスを実施

2024年8月に、生成AIを活用した新聞生成化サービス「AI東京ドームシティ新聞」を、東京ドームシティ内の屋内型キッズ施設 ASOBono!にて実施しました。

本サービスは、お客様がご自身のスマートフォンを使って、今回のために開発された生成AIにアクセス。AIからの簡単な質問に答え、当日撮影した思い出の写真を送信するだけで、“世界にひとつだけ”の新聞を生成することができます。



東京ドームグループの サステナビリティ

東京ドームグループでは「安全」「人材」「環境」「社会」の観点から、サステナビリティに配慮した事業運営を行っております。



安全

P29



人材

P31



環境

P35



社会

P37



サステナビリティ [安全]

常にお客様に安心して楽しんでいただくために、さまざまな安全対策を講じています。

当社においては「安全こそが当社グループの存立基盤である」ことを強く認識し、「安全理念・安全基本方針」のもと、日々「いつも安全・安心な環境を保ち続ける取り組み」～施設・設備への更新投資の継続、安全管理体制の推進と拡充、テロ対策強化や、防災・防犯の教育、訓練活動の拡充～を強化しています。

具体的には、お客様および従業員に対する総合的な安全管理体制構築の推進を所轄する部署として、安全推進室※を設置し、当社代表取締役社長が経営において安全面を重視して判断する責任を負う統括安全管理者に就任しています。同室は、年次安全計画の策定、安全活動に関する企画立案・推進、安全監査、リスクアセスメント、年次安全活動報告書の策定などを担当し、安全確保の施策全般をスパイラルアップさせていくためのPDCAサイクルの仕組みをつくり、機能・維持しています。また2017年4月より「インシデント情報管理システム」を導入、当社グループ内で発生した不具合やヒヤリハット事例などに関する情報をデータベース化しています。関連情報を全役職員で共有することにより、継続的な安全啓発を図り、当社グループの安全に関する活動のさらなる推進につなげています。さらに2019年からは、「安全活動モデルAAA (トリプルエー)」についてグループ全体に周知活動を展開しています。

※2021年10月より安全推進室の業務を継承し、グループ全体のリスクを統括する部署としてリスク管理部を設置しております。

安全理念

東京ドームグループは、お客様と「感動」を共有するために、安全を第一に考え、行動します

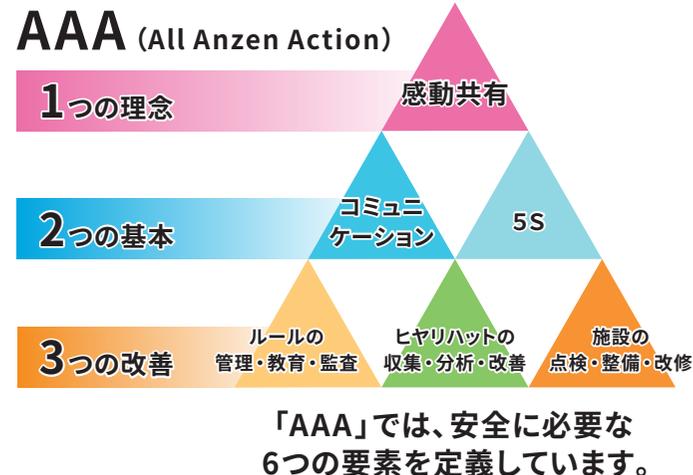
安全基本方針

安全で楽しい施設とサービスの提供を追求し続けます
安全について私たち自身で基準を設定し遵守します
安全のための教育訓練に積極的に取り組みます

グループ全体での効果的な安全マネジメントシステムの構築を目指して

東京ドームグループ 安全活動モデルAAA (All Anzen Action)

当社グループは、従来から東京ドームシティ アトラクションズが取り組む「安全活動モデルAAA」をグループ横断的に実行するための周知活動を展開しています。「AAA」は、東京ドームグループすべての (all)、安全管理における (anzen)、行動 (action) を網羅的かつ分かりやすく体系化したもので、今後「AAA」を基準とすることで、現状の安全活動における弱い面・漏れなどにいち早く気づき、強化いたします。当社グループは安全理念および安全基本方針の徹底を図るためさまざまな取り組みを行ってまいりましたが、「AAA」導入により、グループ全体でよりレベルの高い安全管理体制の構築を進めてまいります。





サステナビリティ [安全]

「安全理念・安全基本方針」のもと「安全文化」を築き上げるための努力を継続します。

「安全の日」と「安全週間」



統括安全管理者による安全巡視

安全に対する強い意識を新たにする日として、1月30日を「安全の日」と制定しています。また、1月30日から2月5日までの1週間を「安全週間」とし、各事業所や各施設における安全の総合点検、統括安全管理者による安全巡視を行っています。

安全啓発室



安全啓発室

2017年1月30日、「東京ドームグループ安全啓発室」を設置しました。2011年1月30日のお客様死亡事故時の舞姫搬器の一部や、事故概要などのパネルを恒常的に展示し、安全文化の醸成と安全意識の向上のために、全従業員への安全教育の場として活用しています。

テロ対策で警視庁より表彰



長岡社長(右)へ感謝状を授与

東京ドームシティは警視庁と連携し、さまざまな自主警備活動・テロ対策を行っています。2022年7月には、アメリカ合衆国・バイデン大統領来日時の警視庁のテロ対策への協力および東京ドームシティでの特別警戒体制の実施に対し、警視庁富坂警察署長より「感謝状」が贈られました。

安全管理講習会



安全に関する取り組み

東京ドームシティ アトラクションズでは、安全管理を強化するための講習会を実施しています。毎年、舞姫事故講習会、運行管理者勉強会、運転者講習会、緊急時対応訓練など、年間で1,000回以上の各種講習会を実施しています。

防災訓練



自衛消防隊本部

大規模災害により同時多発的に火災や負傷者などの被害が発生したという想定で各自衛消防隊の部分訓練の強化と連携訓練を定期的に行っています。災害対策本部や災害対策班は、実際に近いシナリオなきブラインド型訓練を行うことで状況に応じた対応力を養っています。



東京ドームにおける巨人戦開催時の被災を想定した初の大規模有観客防災訓練を実施

2024年3月に(株)読売新聞東京本社と(株)読売巨人軍、当社の3社は、東京ドーム場内での災害発生時のお客様の安全と安心を確保するため、巨人戦開催時の被災を想定した、東京ドームでは初となる観客参加型の大規模防災訓練を実施し、約8,000人のお客様にご協力いただきました。スタンドに多数のお客様がいらっしゃるリアルな環境を想定した訓練を実施することで、危機管理上の課題発見および改善を行い、今後もより一層安心してご来場いただけるスタジアムを目指します。



サステナビリティ【人材】

ホスピタリティを行動にする人材育成と各種施策に取り組んでいます。

現在そして将来に向けて東京ドームグループの発展と成長の礎となるのは、継続的な人材育成にほかなりません。

東京ドームシティの現場ではハード面でグローバル化・ユニバーサル化に対応していますが、最後はすべての現場の最前線にいる社員の対応、ソフト面にかかっています。そのため、自分自身で考え、周囲を巻き込みリードしていける人材を育てていきたいと考えています。社員の成長を応援する体制として、階層別研修や自己啓発プログラム(資格取得支援、社外セミナーへの派遣等)など、さまざまな研修プログラムを用意し、社員一人ひとりの成長意欲の向上をサポートしています。

また、東京ドームグループ教育センターによるグループ全体の従業員に向けた教育・研修のほか、定期的な「東京ドームシティNo.1プロジェクト」の開催をはじめとしたCS向上活動を通して、東京ドームシティで働くスタッフが接客技術を磨いています。さらには、外部機関との資本業務提携を通じて、サービスのIT化にも積極的に取り組むほか、バリアフリー化や熱中症対策など、多様性のあるすべてのお客様が、安心して楽しんでいただける場を持続的に提供するための各種施策に取り組んでいます。

東京ドームグループの目指す人材像

- ① 経営理念をもとに、自ら考え、主体的に行動することができる。
- ② 「心が動く」感度を高め、「心に残る」新しい価値・感動を創造することができる。
- ③ 仲間との協働を通して積極的に学び、「多彩なつながり」を生み出すことができる。

東京ドームグループ教育センター ～現場の力を強くする～

東京ドームグループは、顧客満足度を高めていくために第一線で働く従業員への教育にも力を入れています。

東京ドームグループ教育センターでは「現場の力を強くする」を合い言葉に、現場モニタリング・研修・教育資料の共有などを進めています。

研修例 ● 現場トレーニングのコツを学ぶトレーナー研修 ● チームビルディング研修
● 接客研修 ● 課題解決ワーク ● 多様性理解ワークショップ 等

東京ドームグループの大切にしている思いを核にしなが、働く上で必要な知識やスキルを学べるようになっていきます。従業員一人ひとりが働くことに喜びや楽しみを持つこと、それがお客様へのよりよいサービスにつながり顧客満足度を高めていってくれると考え取り組んでいます。





サステナビリティ [人材]

働くことに喜びや楽しみを持つことが、お客様へのよりよいサービスにつながると考えます。

東京ドームシティCS活動

東京ドームシティは「ここにしかないエンターテインメントシティ」を実現し、お客様や働く仲間の「心が動く、心に残る」街でありたいと考えています。1人でも多くの方にファンになっていただくために、東京ドームシティ全体の接客力を高めるCS活動に取り組んでいます。2024年度は約100施設・店舗がエントリーし、研修やロールプレイングコンテストに参加しました。



取り組みを通じた施設店舗同士のつながりは、働く仲間の意識を高めることはもちろん、お客様との感動の共有につながっています。

- 具体的な活動**
- 約190施設・店舗を対象とした「覆面調査」による現状分析
 - 施設・店舗責任者とロールプレイングコンテスト出場者への「課題認識研修」「サービス関連研修」
 - 施設・店舗責任者を対象とした「個別相談会」
 - 店舗代表者による「接客ロールプレイングコンテスト」

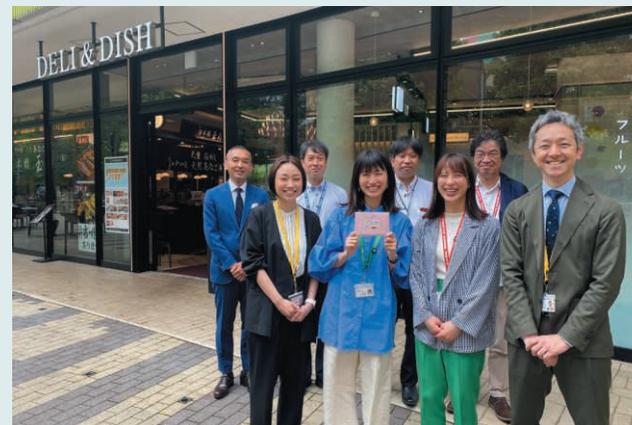
DX人材育成施策「DXアベンジャーズ」

東京ドームグループ全体でのさらなるDX推進のため、DXの取り組みをリード・実行できる人材を増やし支援するべく、継続的にDX人材育成施策を展開しています。2021年4月からは、DX推進を担うコアメンバーの育成を目的に、選抜型専門領域研修「DXアベンジャーズ」を開始しました。DXプロジェクトを推進する上でのビジネス・テクノロジーの現状理解から、新ビジネスモデル構築までのプロセスを体験する演習・議論中心のプログラムを展開しております。

“感動の輪”を広げるしくみ「ほめポスト」

東京ドームグループは、お客様と感動を共有するだけでなく、ともに働く仲間との感動の共有も大切にしています。2021年に発足したほめポスト（お褒めポスト）は、従業員が東京ドームグループの施設を利用して、スタッフの接客やサービスに対して「素敵だな」と感じたことや、普段なかなか伝えられない仲間への感謝の気持ちを発信・共有できるしくみです。従業員の体験を発信するだけでなく、お客様からいただいた感謝のお言葉も共有することができます。褒める・褒め合うというコミュニケーションの活性化が従業員の意欲を高め、パフォーマンス向上へとつながります。

東京ドームグループのさまざまなところでお客様の期待を超えて感動を共有する場面が増えることで、経営理念の実現を目指しています。



カスタマーハラスメントへの対応

東京ドームグループのすべてのスタッフが、お客様との感動の共有を目指し、心身ともに健全かつ安心して働ける環境を構築するために、カスタマーハラスメントに関する基本方針を定めました。



サステナビリティ [人材]

従業員が個性や能力を発揮できるよう、人材育成のためのさまざまな取り組みを推進しています。

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

多様性を受け入れ、尊重し合える風土づくりを実現すべく、人種・国籍・宗教・性別・年齢・障がいの有無などに関わらず、誰もが活躍できる制度の整備と従業員の意識改革に取り組んでいます。

取り組み例

- 東京ドームグループ従業員に向けた「DE&I」トップメッセージの発信
- 相互尊重をしながら意見を伝え合うことを学ぶ「アサーティブ・コミュニケーション研修」
- 自身の能力を発揮しながら働くことができる制度の促進「障がい者雇用」
- 自身の強みや持ち味を再確認しキャリアを考える「キャリア支援プログラム」

一般事業主行動計画（取り組み期間2021/4/1~2026/3/31）

女性活躍推進法にかかるとの行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 正社員総合職採用者に占める女性比率40%を維持する ② 女性管理職比率10%を目指す ③ 年次有給休暇の取得率70%を目指す
次世代育成支援対策推進法にかかるとの行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 育児を行う従業員へ利用できる制度の周知 ② 時間外労働削減のための措置を継続 ③ 子育てを行う従業員が就業を継続し、活躍できる取り組みを実施

障がい者雇用の取り組み

2020年6月、障害者雇用促進法に基づく特例子会社「株式会社東京ドームウィズ」を設立し、障がい者の雇用機会創出・拡大に取り組んでいます。

東京ドームグループは「人とひととのつながり」によって成長することを目指し、障がい者と健常者がお互いを尊重して信頼性を高め、ともにやりがいを持っていきいきと働ける職場づくりを推進しています。2025年2月現在、同社における障がい者雇用数は26名で、東京ドームシティの各事業所のバックヤード業務、従業員カフェ運営、東京ドームホテルのベッドメイク他客室業務などを行っています。従業員一人ひとりの個性を生かしながら、今後もさらなる職域の拡大に取り組んでいきます。

新規事業社内提案制度「mokuMOKU」

新規事業を創出することを目的に、全社的に社員から新たな事業アイデアを募るため、2020年に「mokuMOKU」はスタートしました。

新規事業創出を実行できる人材を増やし支援すべく、新規事業に対する知見を深める学びの場として、ワークショップやオンラインプレスト、メンタリングなどを定期的に行っています。交流会の開催やslackでのコミュニティを形成し、アイデアの種が生まれやすい環境づくりに取り組んでいます。

また、プロの専門家による伴走型の支援を受けることもできます。より質の高い支援を受けることで、事業内容は日々ブラッシュアップされています。

2021年秋には初の社内ビジネスコンテストとなったmokuMOKU AWARDを開催しました。選ばれたチームのみがステージに立ってプレゼンをして競い合い、勝ち上がったチームは事業化に向けてさらなる仮説検証を行っていきます。

活動内容

- アイデアの発案、質向上のための学習支援&コミュニティの形成プログラム
- プロの専門家による伴走型の支援
- 新規事業提案ピッチコンテストmokuMOKU AWARDの開催



mokuMOKU AWARD 出場者から

新規事業開発は「ビジネスの総合格闘技」だと思っています。これまでのすべての経験が生きました。ここで得たすべての経験が本業でも生きています。まだまだ途上ですが、ユーザーインタビューを繰り返し、業界関係者に突撃し、プレゼンを重ねながら検証を進めていくプロセスは、大袈裟ではなく第二の青春です。手厚いサポートもあります。難しい局面もパッションでなんとかなっています。誰もが熱きチャレンジャーになれる場所がmokuMOKUです！





サステナビリティ [人材]

職場環境の整備に努め、社員一人ひとりの成長を企業の力に変えていきます。

多様な働き方を実現するさまざまな制度

従業員の個性や能力を十分に活かしながら活躍できるよう、職場環境の整備と福利厚生の充実に取り組んでいます。具体的には、仕事と育児・介護の両立支援として、産前・産後休暇や育児・介護休業に加え、2025年4月からは「育児短時間勤務制度」の期間を延長し、子どもが小学校3年生を修了するまで利用可能としています。さらに、最大で中学1年生の4月まで「ワークサポートコース」を利用することで、長期的な視点で仕事と育児の両立を支援しています。また、最大730日利用可能な「介護時短勤務」や、介護に関するセミナー情報の提供、柔軟な休暇取得を可能にする制度など、介護支援制度も充実させています。また、階層別研修や自己啓発プログラム(資格取得支援、通信教育・視察援助、社外セミナーへの派遣等)を通じて、社員一人ひとりの成長意欲の向上をサポートしています。

産前・産後休暇

育児・介護休業

ワークサポートコース

年次有給休暇
(時間単位付与あり)

おでかけサポート
(視察支援制度)

海外視察派遣制度

オフィスリニューアル

従来の部署毎に個室で区切られたオフィスでは「コミュニケーションが取りづらい」「部署間の横のつながりが生まれづらい」などの課題があったため、原則として部屋の仕切りをなくした構造とし、シナジーが生まれやすい環境を整えました。

また、執務エリアだけではなく、コミュニケーションスペースを作り、仕事以外でも気軽に会話ができるオフィスづくりに取り組みました。

あわせて新設されたカフェテリアでは、2020年に障がい者の雇用機会創出・拡大を図るために設立した「株式会社東京ドームウィズ」のスタッフが勤務しています。カフェでは同社の北戸田事業所で栽培したハーブティーの提供も行っております。



(株) 東京ドームの働き方

女性管理職比率



8.7%

(2025年4月時点)

月平均所定外労働時間



9.6時間

(2024年度)

過去5年間の新卒採用者定着率



98.2%

(2025年4月時点)

男性の育休・配偶者出産休暇取得率



93.3%

(2024年度)

正社員数・平均年齢



男性
363名 / 39.9歳



女性
226名 / 41.0歳

(2025年4月時点)

平均勤続年数



13.6年

(2025年4月時点)



サステナビリティ [環境]

脱炭素社会の実現に向けた積極的な環境保全に努めています。

事業活動で発生する環境負荷の低減に向けて、さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。環境に配慮したシステムの導入や専門組織の設置など、地球温暖化防止をはじめとする持続的な環境保全を積極的に推進しています。

東京ドームグループは、お客様と「感動」を共有し、持続的に企業価値を創出するためには、広く社会と共生・共存し、地球規模での脱炭素社会の実現に向けた積極的な取り組みが必須であると考えております。

当社グループでは、三井不動産グループが掲げる温室効果ガス排出量削減基準を新たな目標として掲げ、今後も各種施策に取り組んでまいります。

**三井不動産グループ全体の温室効果ガス排出量を
2030年度までに40%削減 (2019年度比)
2050年度までにネットゼロ**

※SCOPE1+SCOPE2は2030年度までに46.2%削減 (2019年度比)

東京ドームアリーナ内の全照明LED化をはじめ、省エネ関連設備を積極的に導入

東京ドームシティでは、各施設にて省エネルギーの推進と環境負荷の低減をいち早く実現しています。2016年からの東京ドーム大規模リニューアルにおいては、アリーナ内の全照明をLEDに更新しました。また、その他の省エネ対策として、「東京ドームの雨水再利用システム」「地域冷暖房システム」「微細な電力制御による省エネ効率の高いインバータ設備」「『エネルギーの見える化』システム」をはじめとした設備を積極的に導入しています。



電力グリーン化の取り組み

三井不動産グループの脱炭素社会の実現に向けてのグループ行動計画「2030年度までに全国の保有物件共用部・自社利用部の電力をグリーン化」の方針に沿って、東京ドームグループとしては2023年度より東京ドーム（スタジアム）の物件共用部・自社利用部で使用する電力はすべてRE100対応の再生可能エネルギー由来の電力を使用しております。





サステナビリティ [環境]

事業活動で発生する環境負荷の低減に向けて、さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。

リサイクルへの積極的な取り組み

東京ドームでは、環境への配慮として場内のゴミ箱をリニューアルし、ゴミの分別回収促進・リサイクル向上に努めるとともに、飲食売店では、環境に配慮した素材を使用した包材を使用して、環境負荷低減への取り組みを推進しています。

また、東京ドームシティ全域に集められた使用済みペットボトルを回収して新たなペットボトルに生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」水平リサイクル



を本格始動したほか、回収したペットボトルキャップから再生品化したゴミ袋 (CircleX) を東京ドームシティで使用することでCO₂排出量の削減に寄与しています。

さらに、2023年のインフォメーションユニフォームリニューアルでは、従来使用していたユニフォームを車の緩衝材や防水材等へリサイクル処理しました。新ユニフォームによるブランディングの体現を通して、環境にも配慮した取り組みを実施しています。

松戸競輪場にソーラーパネルを設置



エネルギー利用の合理化および地球温暖化対策の一環として、松戸公産(株)が運営する松戸競輪場(千葉県松戸市)に太陽光パネルを設置しております。

IoTスマートゴミ箱「SmaGO」導入

東京ドームシティ内に、地球環境に配慮し開発されたIoTスマートゴミ箱「SmaGO」を計118台導入しました。「SmaGO」はソーラーパネルによる太陽光発電・蓄電機能を備えており、溜まったゴミを約1/5に自動圧縮します。また、通信機能によりゴミの集積状況がPCやスマホから把握できるため効率的なゴミの回収作業が可能になります。



shop in 制服製作におけるCO₂削減への貢献(カーボンオフセット)

ショップイン・クレームエルージュでは2019年に制服をリニューアル。制服を製作するにあたりカーボンオフセットに取り組み、1,650kg分のオフセットをいたしました。

地域の美化活動

東京ドームシティで働くスタッフが毎月、およそ1時間をかけて東京ドームシティ周辺の公道を清掃しています。専用のオレンジ色のベストを着用して清掃に参加するスタッフは社内では「クリーンレンジャー」と呼ばれており、今後も継続して地域環境の向上を目指してまいります。





サステナビリティ [社会]

地域の皆様との共存共栄による持続的な企業価値の向上を目指し、幅広い取り組みを行っています。

持続的に企業価値を向上させていくためには、地域の皆様とともに歩みを進めていくことが不可欠です。そこで、イベントの企画、防災、定期的な地域の美化活動、文化事業の支援、産学連携、自社施設へのご招待など、地域住民の皆様と密着した幅広い取り組みを実施しています。東京ドームシティのある文京区はもとより、熱海や松戸など、当社グループが事業を営む地域の皆様との関係を大切にしながら事業を営んでいきます。

来場者と地域住民の安全確保

東京ドームシティは「東京都震災対策条例」に基づき、東京都から、大地震に伴う大規模な市街地火災などに際し、住民が避難するための「緊急避難場所」に指定されています。災害時には一時的に避難してきた人や行き場のない帰宅困難者の安全確保が全従業員の最優先事項となっています。大規模地震等の災害時には、災害対策本部が設置され、東京ドームシティ内にある7つの自衛消防隊を指揮し、被害を最小限に抑えるために活動します。このため東京ドームシティでは、年間2,000回以上の防災・安全訓練を行うとともに、総合防災訓練では、従業員のほかに地元消防や警察も参加して防災への意識を高めています。

文京区(東京都)と、災害時の相互協力に関する協定を締結

文京区と当社は、災害時における相互協力に関する協定を締結しています(2013年締結、2019年一部見直し)。この協定は、災害時の帰宅困難者対策として、当社が一時滞在施設の提供などを行うものです。災害時には、文京区の要請により東京ドームシティの一部施設において、当日のイベントなどを考慮の上、帰宅困難者を可能な限り受け入れます。

夜間特別開園「秋の夜長の小石川後楽園」

東京ドームに隣接し、指定特別史跡・特別名勝を受ける数少ない文化施設「小石川後楽園」との共同で、2024年1月に庭園初、さらに同年9～10月に2回目となる夜間特別ライトアップを開催しました。東京ドームシティのイルミネーションのノウハウを活用した制作協力により、地域の魅力を掘り起こし、国内外の新しい顧客層の集客に成功するなど、相互の観光促進を図りました。



近距離モビリティサービス「WHILL」/ 全個室型ベビールーム「mamaro spot」の導入

東京ドームシティでは、免許不要で操作できる近距離モビリティサービス「WHILL」を導入しています。シニア世代や長距離の歩行に不安がある方など、あらゆる人が気軽に敷地内を移動できる環境を目指しています。また、東京ドームでは、小さなお子様を連れたお客様も快適に施設を利用していただくために、全個室型ベビールーム「mamaro spot」を設置しました。今後もすべてのお客様が快適に過ごせる環境・施設を目指して、東京ドームシティ全体でさまざまな取り組みを行っています。





サステナビリティ [社会]

東洋学園大学 現代経営学部 「マーケティングとメディア研究ゼミ」産学連携プロジェクト

「大学生の来場促進につながるイベント、キャンペーン、プロモーションの提案」を目標として東洋学園大学（文京区）とともに2023年より取り組みを開始。東京ドームシティの来場促進施策を考案いただき、イベントを実施しました。ショートフィルムの上映やサンタパレードなど学生ならではの新しいアイデアで東京ドームシティを盛り上げていただきました。



「東京ドームシティ アートプロジェクト」の実施

東京ドームシティとアートの可能性の探求をテーマに、2022年5月から5年間を活動期間とし、東京ドーム、東京藝術大学、東京藝術大学芸術創造機構の3者が連携し、東京ドームシティという場所が持つ固有の魅力の調査研究、さまざまなお客様がさまざまな形でアートの楽しさや素晴らしさに触れられる機会の創出、若手アーティストの活動、活躍の場の創出を行います。これらの活動により、アートを基盤としたこれまでにない企業価値向上の仕組み構築を図り、アート文化の発展や、アートを通じた社会課題の解決、社会的豊かさの創出を目指します。

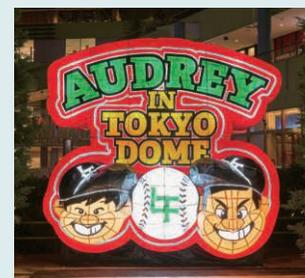


企業訪問の受け入れ

「東京ドーム」を中心に、遊園地事業やホテル事業など、日本国内でさまざまなジャンルのレジャー事業を展開し続けている当社は、社会を構成する一員として、学校教育の支援を目的として、全国の児童・生徒の皆様の企業訪問活動に積極的に対応しています。中学生を中心に、多くの児童・生徒の方々に訪問いただき、レジャー産業ならびに当社事業への関心と理解を深めていただいています。また、オンラインでの企業訪問も受け付けております。

都立工芸高校 定時制 ねぶた造形同好会 作品展示

2024年に開催した『オードリーのオールナイトニッポン in 東京ドーム』と『ご当地ふるさとウィークエンド!』のイベントにあわせて、東京都立工芸高等学校 定時制 ねぶた造形同好会（文京区）が制作したねぶたを展示しました。



学生の声

「お客様のニーズに応える難しさや現実的な問題などにぶつかりながらも企画を成功させる喜びが自分たちの学びにつながった。」
「自分たち主体で企画を進めさせて貰えた経験は、今後の就職活動や社会に出た後も、必ず私たちの強みになると思う。」





東京ドームグループの歴史はお客様との「感動共有」の歴史です

- 1936** (株)後楽園スタジアム創立
- 1937** (株)後楽園野球クラブ(球団名 イーグルス)設立
～1938年株式譲渡 ※1943年解散
後楽園スタジアム(野球場)開場
- 1942** 後楽園不動産(株)設立
- 1946** 後楽園スタジアム3階に囲碁・将棋遊技場開場
以降、多角経営に進出
- 1949** 東京証券取引所に株式上場登録
大阪証券取引所に株式上場登録 ～2009年上場廃止
後楽園競輪場開場
～1973年都営競輪廃止後、後楽園競技場と名称変更し
夏期はプール、冬期はゴルフ練習場として営業 ～1984年閉場
- 1955** 後楽園ゆうえんち(現・東京ドームシティ アトラクションズ)開場
野球以外のレジャー施設も球場の周りに
次々と誕生する中、「後楽園ゆうえんち」が開場しました。
- 1959** 石打後楽園スキー場、
翌年10月石打後楽園カントリークラブ開場
以降、リゾート事業に進出 ～2007年事業譲渡
- 1962** 後楽園ボウリング会館
(現・後楽園ホールビル) 全館開場

- 1965** 熱海後楽園(現・熱海後楽園ホテル)開業
「熱海後楽園」をはじめとするレジャー施設を、
日本各地で展開していきました。
- 1969** 進商事(株)設立
- 1971** SHOP IN KORAKUEN(現・shop in)1号店
「新宿店」開店 ～1989年閉店
- 1973** 黄色いビル開場
- 1977** 黄色いビル別館開場
- 1980** (株)後楽園ファイナンス設立 ～2006年株式譲渡
- 1981** (株)後楽園スポーツ(現・(株)東京ドームスポーツ)設立
- 1985** (株)後楽園総合サービス
(現・(株)東京ドームファシリティーズ)設立
(株)大阪後楽園ホテル設立 ～2002年清算
- 1986** 大阪後楽園ホテル開業
以降、シティホテル事業に進出 ～2001年閉業
- 1987** (株)札幌後楽園ホテル設立
- 1988** 東京ドーム開場

- 1988** 札幌後楽園ホテル
(東京ドームホテル 札幌に2011年名称変更)開業
～2017年営業終了
- 1990** (株)東京ドームに社名変更
- 2000** 東京ドームシティに名称変更
東京ドームホテル開業
- 2003** LaQua開場
- 2004** 松戸公産(株)を株式交換により
完全子会社化
- 2008** MEETS PORT開場
- 2011** ASOBono!開場
- 2017** Gallery AaMo開場
- 2019** 「ATAMI BAY RESORT KORAKUEN」開場
- 2021** 三井不動産(株)の連結子会社化に伴い上場廃止
- 2022** 東京ドーム大規模リニューアル
- 2023～** 東京ドームシティ大規模リニューアル



日本初の全天候型多目的スタジアム「東京ドーム」が誕生。雨天の心配がなくなったため、スポーツはもちろんのこと、さまざまなビッグイベントやコンサート会場としての利用が増えました。



トップメッセージ



代表取締役会長 CEO

北原 義一

代表取締役社長 COO

長岡 勲

東京ドームグループは、1936年に「プロ野球専用のスタジアムをつくる」という夢を抱いて創業し、翌年「後樂園スタジアム」を開場しました。以後、私たちは東京・水道橋地区を皮切りに、多くのレジャー・エンターテインメントを創出してまいりました。

天候に左右されず快適に野球やコンサートを楽しむ。イベントの後も余韻に浸りながら仲間と語り合う。都心で気軽にアトラクションやスポーツにトライする。温泉やサウナでリフレッシュする。ホテルでゆっくり食事を楽しむ。これらさまざまな施設やサービスを追求し、お客様に心から楽しんでいただくことを私たちの使命としております。

“私たちは 人とひととのふれあいを通して お客様と「感動」を共有し 豊かな社会の実現に貢献します”

この経営理念のもと、お客様の感動のために、さまざまなチャレンジを行う一方、安全の確保を何よりも優先して考え行動することを心に刻み、安全理念の徹底への取り組みを継続して行っています。

2021年、東京ドームグループは、三井不動産グループの一員として新たな一歩を踏み出しました。三井不動産株式会社、株式会社読売新聞グループ本社、当社の3社が力を合わせ、それぞれの強みを発揮することで、よりスピーディに、より魅力ある街・空間づくりに挑戦できると考えております。

私たちは、この先もスポーツ・エンターテインメントを中心とした空間・時間創出のさまざまな可能性を追求し、新たな夢を追い続け、お客様と安全に感動を共有できる楽しい未来を目指してまいります。



さあ、街から未来をかえよう

三井不動産グループ

MITSUI FUDOSAN GROUP



株式会社 東京ドーム